



俺ならこう選ぶ！

メカニック視点の多走行車選び

多走行車はコンディションの見極めが重要。そこで整備のプロであるメカニックに「自分で多走行車を選ぶなら？」というテーマで話を聞いてみた。メカニックならではの視点は、多走行車を選ぶ手助けになるはずだ。

●文= GERMAN CARS ●撮影=G.C.E ●協力=セントラルオート / アウトハーフェン

メカニック視点の多走行車選び 01



児玉 善一郎氏
メルセデス専門修理工場「セントラルオート」
セントラルオートの代表である児玉氏は、ATのオーバードライブなどの重整備が得意。プラバートでも多くのメルセデス・ベントンを乗り継いでいる。今回はその経験から多走行車選びのキモを教わった。

基本的な消耗品は購入後に交換する前提

「エンジンルームがキレイに清掃されていて、オイルなどを使ってピカピカのクルマを見かけることがあります。確かに見た目はキレイで良いのですが、やはり素の状態のエンジンルームを見たいですね。オイル漏れや水漏れの痕跡までキレイにされてしまうと現状を把握することができませんから、汚いくらいが良いんじゃないかって思うくらいです(笑)。知り合いの中古車販売店では、全く清掃しないで現状を見てもらうことを重視しているそうです。

僕らはプロなので、エンジン回りを見ればどこに手が入っているかは分かります。でも多走行車であれば、ある程度の消耗品は交換する前提。

機関面のコンディションが良さそうでもインテリアがダメなクルマは選ばない



エンジンルームがキレイに清掃されたクルマだと、水漏れなどの痕跡も確認できなくなってしまう。どこから漏れているかが重要なのだ。

多走行車を選ぶならココを見る！

- 素の状態のエンジンルームを確認
- インテリアのコンディション
- エアコンとATの状態

素の状態のエンジンルームとはクリーニングされる前の状態のことだそう。オイル漏れなど現状が把握できないクルマは選ばないという。また、機関面のコンディションが良さそうでも、内装の状態が悪いクルマは避けるそうだ。

● 児玉メカニックの多走行車選び 劣化が見られても気にしないポイントとその理由

- オイル漏れ→理由：重篤なオイル漏れ以外は気にしない
- ベルト回り→理由：購入後に交換するから
- センサー類→理由：見た目では判断できないから
- ヘッドライトレンズ→理由：黄ばみは嫌だが、ケミカルなどで対処
- ボディ→理由：多走行車なので多少のキズは仕方がない

自 自分で直せるメカニックらしいポイントだと言えるが、消耗品は交換する前提というところが参考になると思う。多走行車は一般的な中古車よりも安く買えるし、ある程度のメンテナンスはされているはず。そう考えると、購入後の追加メンテで多少の費用がかかったとしても間違いなくコンディションは良くなる。



試乗が可能ならATの変速状態を確認。違和感があるクルマは避ける。



エアコンのガス漏れなども確認。費用がかかる部分なので重視しているようだ。

ただし、修理する時に費用がかかる部分ってありますよね。例えば、オイル漏れでもヘッドガスケットが抜けてそうだったり、エアコンの調子が悪かったり、試乗が可能ならATの変速が明らかにおかしかったり、下回りがカラカラという異音が生じて触媒がやばそうだなというクルマは避けますね。

あと、よく言われることですが内装のコンディションは重視します。修理に入ってくるクルマでもそうなんですけど、内外装をキレイにしているクルマは総じてコンディションが良い傾向があります。基準は人それぞれだと思えますが、これは自分の経験でもあるので自信を持っていますね。だから、たとえ機関面のコンディションが良さそうでも、内装がダメなクルマは買いません。直すにしても内装は高価なパーツが多いですから。



内装パーツは高価。例えばシートの台座部分が割れていることもあり、これを直すとなるとけっこうな費用がかかるという。内装のコンディションが良いクルマは、前オーナーが大切に扱ってきた証。児玉氏がこれまで見てきたクルマでも、内外装がキレイなクルマは機関部も好調だったという。

ユーザさんにアドバイスのつもりなら、これまでの整備履歴が残っているかどうかと、構造を知った上で車種を選ぶということですね。維持においてSクラスやSLクラスは、CクラスやEクラスのようにはいかないですから。新車価格に大きな差があることを考えて、モデル選びをすることが大事だと思います」